

図書館情報学橘会会報 第6号(通号12号)

2008年3月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

卒業式に寄せて

図書館情報学橘会会長 高鷲 忠美

卒業生・修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。また、卒業生・修了生のご家族の皆さん方のお喜びもひとしおだと思います。誠におめでとうございます。

そして、大学におかれまして、ご指導をされてこられました筑波大学図書館情報専門学群 / 図書館情報メディア研究科の先生方をはじめ、教職員の皆様方にも御礼を申し上げます。

本日は、筑波大学同窓会茗溪会支部図書館情報学橘会を代表いたしまして、会長である私が、このような立派な卒業式・修了式にお呼びいただけましたことを大変感謝いたしております。

本日、私が、学群長・研究科長をはじめとする大学の諸先生方ならびに来賓の方々に前に、このような高いところからご挨拶をさせて頂けるのも、私が筑波大学図書館情報専門学群の前身である文部省図書館職員養成所を卒業し、図書館短期大学図書館学科で助手をつとめ、現在筑波大学同窓会茗溪会支部図書館情報学橘会の会長という職に就かせて頂いているおかげです。

図書館情報学橘会は、図書館情報専門学群 / 図書館情報メディア研究科の前身機関であります文部省図書館職員養成所から図書館短期大学、図書館情報大学、そして筑波大学の卒業生が一つの組織となって活動しています。全ての学校の卒業生、修了生を合計しますと7,000名を超える組織であり、図書館界、情報関係企業を始め様々な分野で活躍されています。

図書館情報大学は、2002年10月に筑波大

学と統合して、筑波大学図書館情報専門学群 / 図書館情報メディア研究科となりました。総合大学の一組織として、今後のますますのご発展を同窓生一同お祈りし、期待しております。さて、図書館情報専門学群は、2007年度から「情報学群」に改組されました。「情報学群」の中で、図書館情報専門学群の教育内容は、「知識情報・図書館学類」と「情報メディア創成学類」の一部に引き継がれています。

大正十年開設の文部省図書館員教習所から筑波大学情報学群 / 図書館情報メディア研究科に至る組織は、八十年あまりの年月、日本の図書館員教育、図書館情報学の研究・教育を担ってき、それが今後も継承されていくのです。同窓会と致しましても、筑波大学同窓会茗溪会との関係など、運営については十分な議論と検討を続けて参り、正式に茗溪会支部として認められました。学群単位として支部が正式に認められました。今後とも、是非とも皆さんの若い力もお借りしながら、図書館情報学の発展のために協力できる体制にしていきたいと考えていますので、このような高い席からではありますが、卒業生の皆さんには、同窓会へのご協力を是非とも願います。次第です。

今、図書館の世界をはじめ、あらゆるものが変革の嵐の中にあります。例えば、私は今eラーニングで社会人を対象とした通信制大学の図書館長をしています。2004年に開学したのですが、アメリカのeラーニングを行っている大学教授に遠隔教育における大学

図書館のことを聞いたところ、彼女に「本を郵送するようなことはしないでね」と言われました。ただ、そのとき日本にはeBookがなかったのが不可能で、私の大学では学生から求めがあれば宅配していますので、料金が学生の負担になります。大学教育ですから、どんなところにいる学生にでも必要な文献を提供しなければなりません。そこで、出版社の知り合いにeBook日本語版を作成するようお願いしました。ようやく去年暮れに完成し、日本でも使えるようになりました。後は学部生も使える人文社会科学のオンラインデータベースがあればいいのですが。

この大学の生活の中で、皆さんはそれぞれ

の年月の中で様々な知識などを獲得なさった事と思います。これから先、社会に出てからそれを実践して下さい。もちろん、挫折もあるでしょうし、行き詰まる事もあるでしょうが、それに負けずに研鑽を続け、またさらに大きな人になって頂きたいと思います。

卒業生、修了生の方々のこれからのご健康とご活躍、ご家族の方々のご健康を祈念するとともに、筑波大学情報学群 / 図書館情報メディア研究科のますますの発展を祈願してご祝辞に代えさせていただきます。本当におめでとうございました。

住所不明の方 連絡をお待ちしています

橋会会員の皆様に橋会会報や茗溪会会報をお送りしていますが、下記の方々宛の封書が住所不明で戻ってきました。同窓会会報を確実にお届けするために是非新しい住所をお知らせください。ご連絡はご本人からのほか、お友達からの情報も歓迎します。連絡先は橋会ホームページの会員変更届様式または橋会のE-mailアドレスまで。

<http://www.tachibana-kai.com/announce/modify.html>
 mail: info@tachibana-kai.com

| 卒業校 | 氏 名 (敬称略) |
|-------|------------|
| 文図講習所 | HP 掲載では省略。 |
| 文図養成所 | |
| 文図養成A | |
| 図短図書館 | |
| 図短特養課 | |
| 図短付養成 | |
| 図大図情 | |
| 図大図情修 | |
| 図大博前期 | |

～永年のご薫陶をありがとうございました～

図書館情報メディア研究科教授 寺田光孝先生は平成 20 年 3 月をもって、定年を迎えられます。寺田先生は、昭和 46 年に図書館短期大学別科を修了され、昭和 46 年から昭和 51 年まで、一橋大学経済研究所資料室と一橋大学附属図書館に勤務されました。昭和 51 年に図書館短期大学にご着任以来、32 年にわたり教鞭をとられ、多数の御著書、研究論文を発表される一方で、親身のご指導で学生に慕われて多くの人材を輩出してこられました。この間、長年橋会の理事として、大学と当会との橋渡し役も果たしていただきました。

(文責：会報編集部 気谷陽子)

一つの対比から類比される図書館像のユートピア

筑波大学図書館情報メディア研究科・寺田 光孝

一月程前のことである。友人の画家が小さな画廊を借りて個展を開いていたので、二、三の友人と出掛けてみた。私自身は、円すら満足に描けないほど不器用であり、絵心は小学生以下であるが、絵を見ることは好きである。友人の画家は専ら抽象画を描いている。心的風景なのであろうか、僅かに色調が伝わってくるだけで、意味などからきし分からないのだが、絵の題にはボードレールや中原中也の詩の一節からとられていて、妙に納得させられるものがあった。

ジャコメッティという風変わりな彫刻家がいる。人間を、それも身体を描いている場合も、ことごとくと言っていい程その肉体部分をそぎ落としている。サルトル曰く、「彼は石膏を捏ねて、充実から空虚を創造する」、あるいは、「物と物との間、人と人との間の橋は落ちていた。空虚はいたるところに滑り込み、すべてのものがそれぞれの空虚を分泌している。」彼の彫像は「出現と消滅、遁走と挑発の遊戯」を見せるのだという(「ジャコメッティの絵画」『シチュアシオン IV』所収)。ジャコメッティの彫刻と比較すれば、大概のと言ってもいいだろうが、多くの彫刻家や多くの画家はこれと対極にいる。その最極端に位置する画家としてセザンヌがいる。彼の絵には対象が静物にせよ人物にせよ、故郷エク・サン・プロヴァンスのサン・ヴィクトール山を描いた風景にせよ、圧

倒的な重量感がある。彼の眼は物の奥行き、物の存在そのものに向かっていているようだ。そしてセザンヌをこよなく愛したのはメルロ＝ポンティであるが(「セザンヌの疑惑」『意味と無意味』所収)、彼はセザンヌを存在の芸術家と呼んでいる(『眼と精神』)。画家(芸術家)や画風の好みが対照的であるところに期せずしてサルトルとメルロ＝ポンティに資質の差が見られる。両者の絵画論から画家の対象への眼差し、すなわち世界への接近の仕方に両極端の対比があることを教えられるのである。

画家の眼差しの赴くところ、その目指す世界とはわれわれにとって最も明証性の基盤となる感覚世界つまり、知覚世界のことであるが、これと類比して文献の世界を考えてみる。文献の世界は文化世界に属する。われわれがそこにいる一次的な生世界とは次元を異にする。しかしまた、文献の世界もひとつの世界を構成しており、文献世界への眼差し、接近の仕方にも、そこにもやはり「対比」があるように思われる。

ロジェ・シャルチエは『書物の秩序』で西洋世界が普遍的図書館像を目指し嘗々とその形成に励んできたことを述べている。その文中で、ピブリオテークの別の意味(意味の拡大)を取り上げている。この語は書物のジャンルにも使われており、18 世紀の書籍商＝出版業者は盛んに「叢書」(ピブ

リオテーク)の出版に精出したことを指摘する。「一定のジャンル(小説・小話・旅行記)の既刊の膨大な数の作品をおさめた。」こうしたやり方は百科事典や辞書の作成意図と変わらない。歴大な情報の集成が目的である。他方同時に、「対比モチーフとして、18世紀を通じ、「抜粋」「精選集」「概要」「摘要」とよばれた簡便で使いやすい小冊を大量にもたらすことになる」別系統の集成があることをも指摘する。「削除・選別・縮小」あるいは、「濃縮または蒸留」の意図のもとで、「理想の図書館は少量の書物しかうけつけない図書館」を志向する。つまりこの情報を集成しようとする書物ジャンルには、「叢書」と「精選集」の二つの行き方がここで見られるということである。

ところで、この書物ジャンルの二つの異なる方向性は普遍的図書館志向についても言える。個々の宇宙を小宇宙とすれば、書物コレクションの集

積場である図書館は大宇宙を形成するが、この大宇宙に対しても同様の二つの接近パターンが存在することを類推させる。つまり、図書館においても二つの方向性を持ったユートピア(理想の図書館)があることになる。ひとつはあらゆる文献を網羅的にふんだんに取り込む図書館であり、そこにはあらゆる図書が百科全書的に備えられる。豊富であるが、猥雑でもあろう書物の犇めく図書館である。他方にもうひとつのユートピアが考えられよう。こちらのほうは、精選と洗練のうえて作り上げられる図書館であり、全集や古典を中心に収めた抑制的な古典的図書館が考えられよう。だが、全く違う両極の図書館も普遍的図書館を志向していることには変わりがない。

わが国では「普遍」志向の意識が希薄に思われるのだが、時に図書館の普遍性を考え、図書館のユートピアを考えてみることも無駄ではなからう。

平成 19 年度図書館情報学海外研修助成

橘会では、筑波大学の「図書館情報学振興会」を継承し、学生の海外研修への助成などを目的とする「筑波大学支援図書館情報学振興基金」を設置しました。図書館情報メディア研究科、図書館情報専門学群の公募および審査にもとづいて、平成 19 年度は、次の 4 名の図書館情報学海外研修助成を実施しました。以下、研修者(敬称略)所属・学年、研修期間、目的地、目的。

・ 中野倫靖 博士後期課程(以下、後期)3年 H19.9.22-28 Vienna University of Technology(オーストリア、ウィーン) ISMIR2007 への参加及び最新の音楽情報検索研究の動向調査。

・ 山崎静香 後期 2 年 H19.8.18-30 オーストラリア国立図書館及びブリスベン・コンベンションセンター(オーストラリア、ブリスベン) オーストラリア国立図書館の訪問及び国際会議 Medinfo2007 へ参加し最近の動向調査。

・ 松崎博子 後期 1 年 H19.10.29-11.5 ケース・ウェスタン・リザーブ大学アーカイブズ及びクリーブランド公共図書館(アメリカ合衆国オハイオ州、クリーブランド) 米国図書館学者ジェシー・H・シエラに関する資料調査。

・ 池田真知子 学群 3 年 H19.7.2-30 中国国家図書館、北京大学図書館、上海図書館(中国、北京、上海) 中国の図書館について理解を深め、中国の図書館の今後の動向について、日本の図書館との相違点について学ぶ。(注)7.8-7.26 は私費により滞在

社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

〒305-8550 つくば市春日 1 - 2

E-mail info@tachibana-kai.com

公式ホームページ <http://www.tachibana-kai.com/index.html>

発行: 2008 年 3 月 20 日